

## まとめ

今回の調査地を時代順に見れば、古墳時代前期の竪穴住居など集落が営まれ、その後、方形周溝墓・古墳などの墓域となり、再び古墳時代後期に竪穴住居が造られ、奈良・平安時代の掘立柱建物や平安時代の溝群と連綿として集落が営まれていることがわかりました。その中で、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物、土器埋納遺構や円墳築造後1世紀後に土器を供えて祭祀を行った事例は吉身西遺跡としては新たな知見となります。

古墳時代後期、奈良時代の土器埋納遺構は、円墳の北から北東側に集まることから古墳を対象とした後の時代の祭祀に関わる遺構であると考えられます。古墳時代後期以降古代にかけて、現在、各地で古墳が地域の信仰の対象となっているような状況が古墳時代後期以降あった可能性があります。このような新たな知見が吉身西遺跡やこの地域の歴史を理解するうえで貴重な成果であるといえます。

甕・・・大部に孔がある須恵器の広口壺。体部の孔に竹管などを通し、水差しのように用いたと考えられる。

胞衣壺・・・胞衣すなわち後産（胎盤等）を容器に入れて家の出入口に埋め、生まれた子供の長寿を祈る風習のために用いられた。



⑬ 埋納土器検出状況



⑭ ⑬の掘削を進めたところ



⑮ 故意に打ち欠いて埋納していた壺



⑯ 古墳周溝出土甕の底部打ち欠き状況(5世紀末)



⑯ 古墳周溝出土甕(5世紀末)

# 吉身西遺跡発掘調査現地説明会資料

平成26(2014)年1月26日(日) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおりて  
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

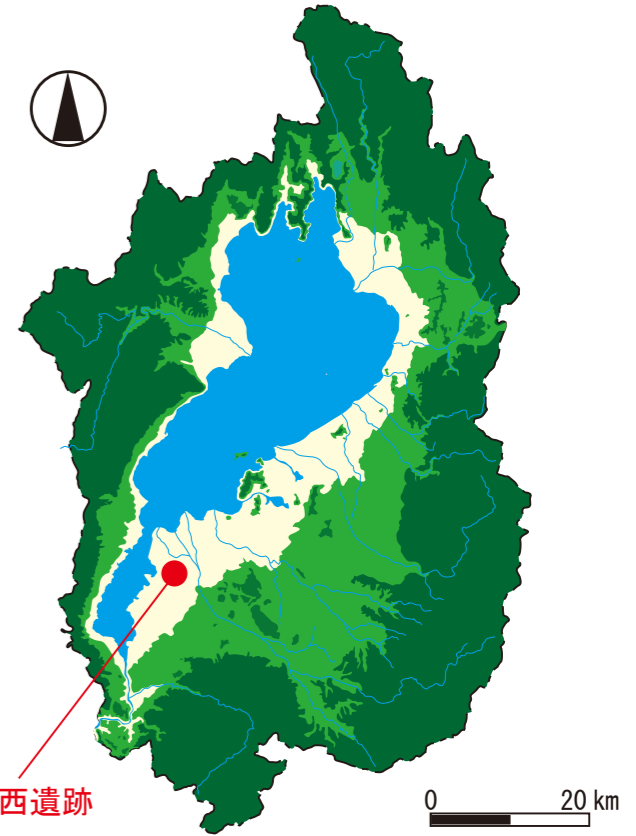


公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

## 調査の概要

滋賀県病院事業庁の依頼により滋賀県成人病院センター第2期改築工事に伴う吉身西遺跡の発掘調査を平成25年10月から2,873㎡を対象に実施しています。

今回、5世紀末の直径約25mの円墳の周濠が見つかり、約一世紀のちの6世紀後半に同周濠を利用したことを示す供献土器が出土しました。さらに周囲から須恵器の壺の一部を故意に打ち欠いた土器を埋納するなど、円墳に対する祭祀行為や奈良時代から平安時代にかけての建物や地鎮あるいは胞衣壺と考えられる土器埋設遺構など祭祀に関係する新たな成果が確認できました。



吉身西遺跡



吉身西遺跡の位置

## 調査の成果

発見された主な遺構

【古墳時代】

竪穴住居 13 棟、方形周溝墓 3 基、円墳 1 基、土器埋納遺構 1 基等。

【奈良時代～平安時代】

掘立柱建物 4 棟、土器埋納遺構 1 基等。(以上 1 月 10 日段階)



① 調査前の風景 (2013 年 5 月)



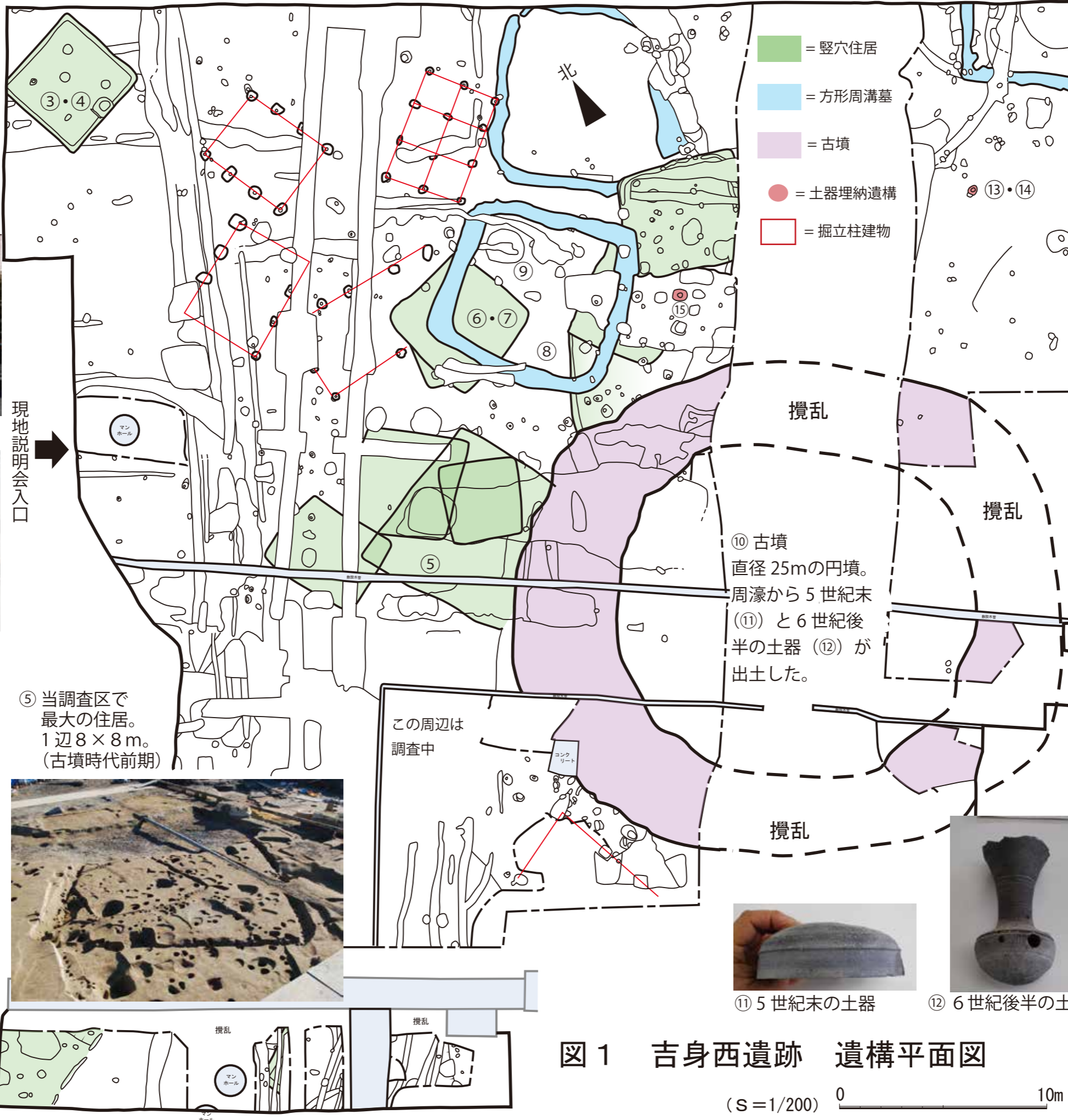
② 作業員さんの遺構掘削風景



③ 竪穴住居 (古墳時代前期)  
一辺 5 × 5 m。



④ ③の住居の貯蔵穴  
(古墳時代前期)



⑥ 竪穴住居 (古墳時代前期)  
一辺 5 × 5 m。



⑦ ⑥の住居出土土器 (甕)



⑧ 方形周溝墓 (古墳時代前期)  
一辺 8 × 8 m。



⑨ 鉄製品が出土した土坑



⑩ 古墳 (古墳時代中期)

図 1 吉身西遺跡 遺構平面図

(S=1/200) 0 10m